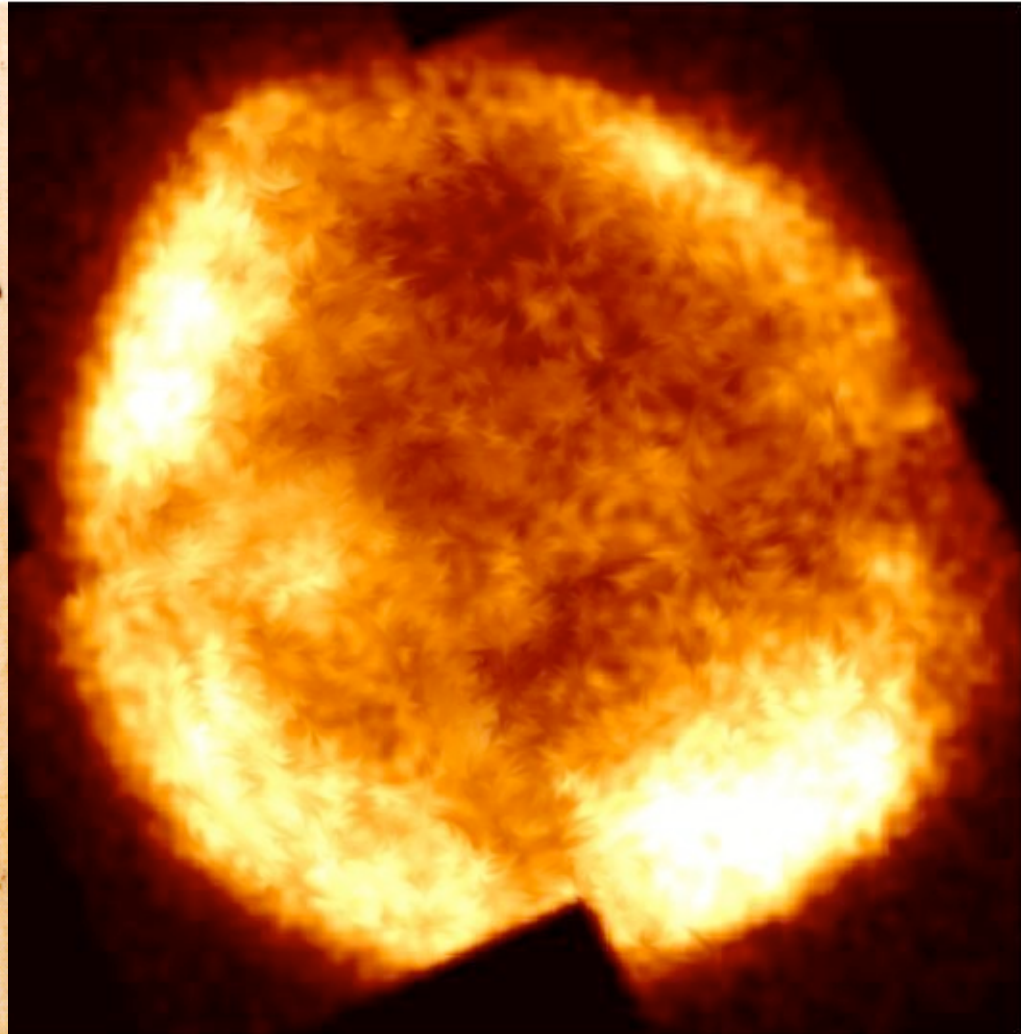
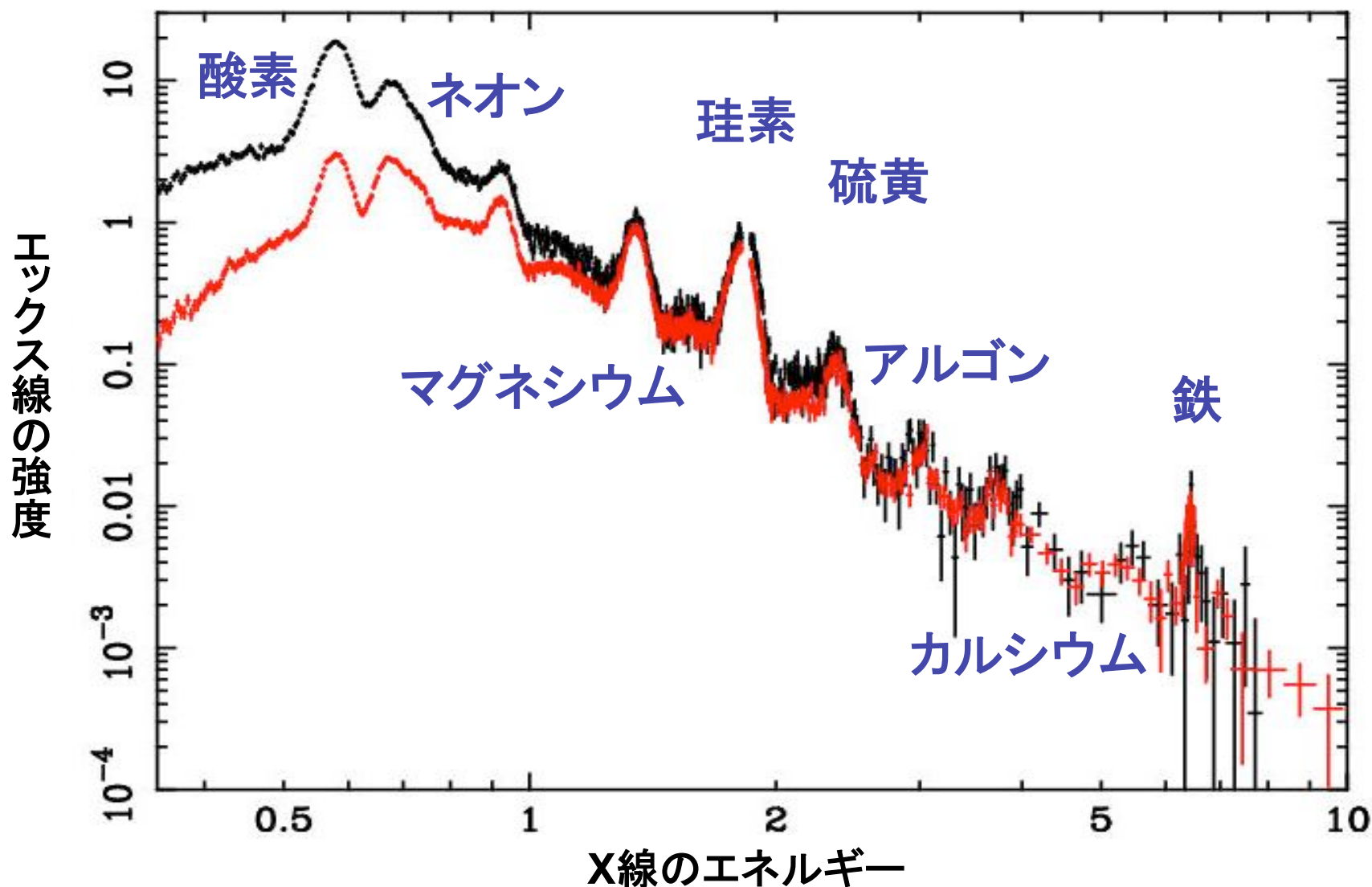


「すざく」は定家の超新星(SN1006)の 千年後の姿を観測した、そして

客星古現例
皇極天皇九年秋七月甲寅客星入月
陽成院自觀十九年正月廿五日丁酉戌時客星
在辟見西方
字多天皇寬平三年二月九日巳卯亥時
客星在東咸早東方朔云十四
醍醐天皇延長八年二月、後七月、初客星
入羽林中
一惟院寬弘三年八月二日壬寅夜、降駈宿
中有大客星如紫微元明動耀連夜至旦
南方或云駈降將軍星、夜有樓閣更光



1. 初めて、硫黄以上の重元素の検出 → 核暴走型超新星であること



SN1006の千年紀

F. Richard Stephenson (英国 Durham Uni. East Asian学教授)
による集計

史上最高の明るさ

南天(観測に不利): 世界中の記録: 30

参考 かに星雲 北天(観測に有利): 10

明るさの記録 (明らかに誇張がある)

○中国: 黄金の円盤のようだった。

地上の物がはっきり見えた(5日の月-8.5等級)

○エジプト: 1/4の月より少し明るかった

○シリア: 月のようだった。

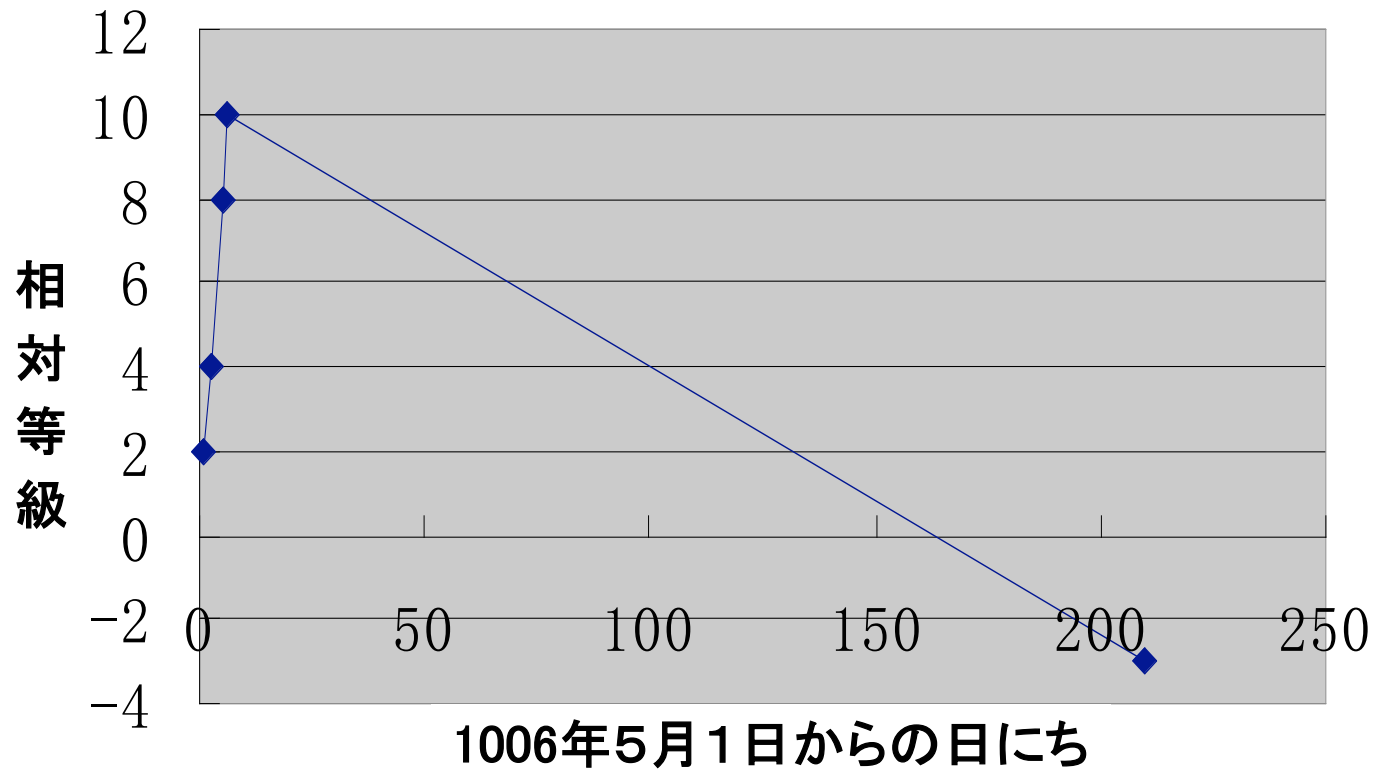
○イラク: 月のようだった

○イエメン: 水面がぎらぎら輝き太陽のようだった

○スイス: 目がくらむようだった (アルプスの山々をかすめる)

参考 金星-4.6等級: 満月 -12.6等級

記録から再現した光度曲線



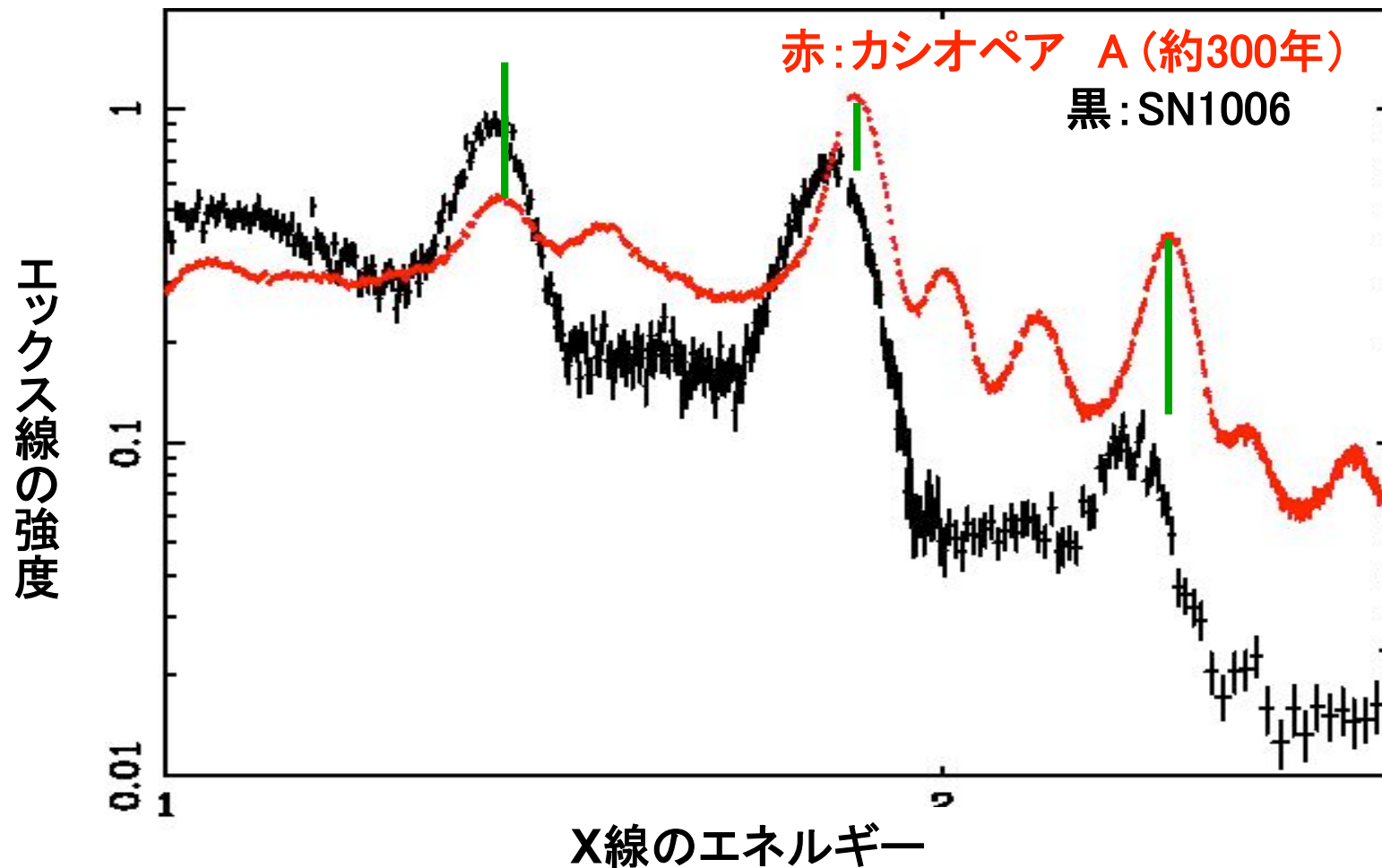
Ia型(核暴走型)絶対等級(極大)

= -19.5等級

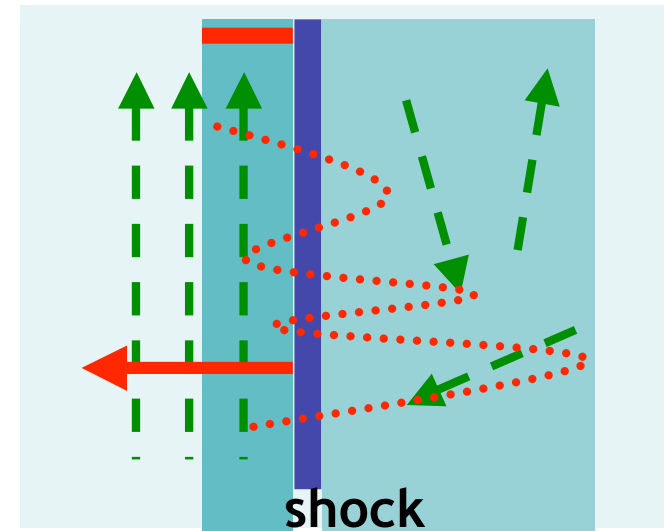
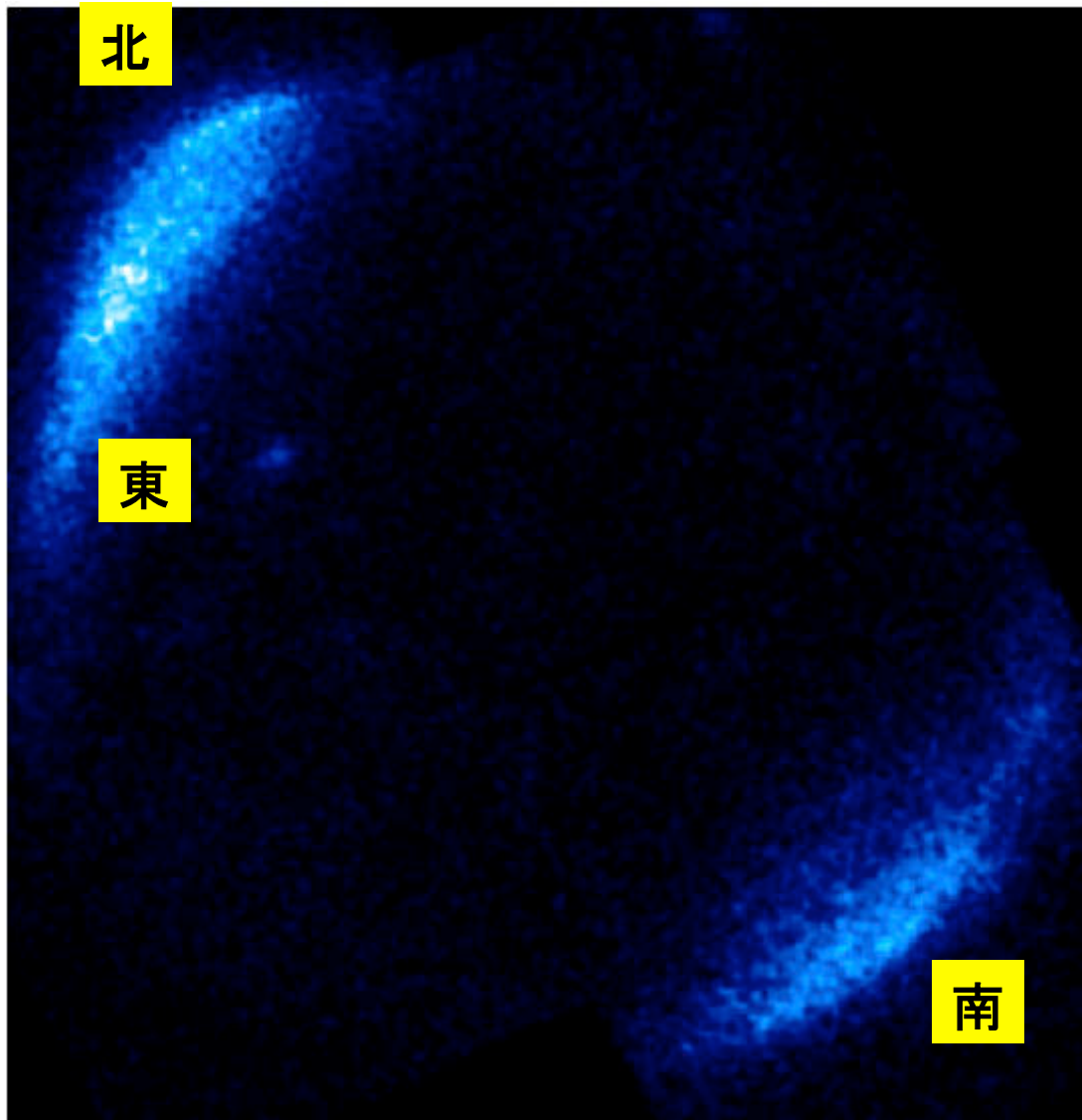
距離 = 7100光年 = 2.2kpc

→ 視等級 = -8.5等級

2. 重元素の電離が殆ど進んでいないことを初めて発見
→ SN1006は年齢約300年のカシオペアAより“若い”
→ 銀河系で一番“若い”



3. 場所毎に違う高い宇宙線加速効率を初めて発見 北 > 東 > 南



動く壁の間に「ピンポン
玉が跳ね返る

ピンポン玉が早く跳ね返る
→玉は早くスピードが増す